

スウェーデンの欧州単一市場への統合と経済制度の変化

神戸大学大学院経済学研究科 丸山佐和子

【報告要旨】

本報告ではスウェーデンの欧州単一市場への統合と企業活動への影響について分析する。1990年代以降、スウェーデン企業を取り巻く経済環境は大きく変化した。変化をもたらした要因の一つは1994年の欧州経済地域（European Economic Area, 以下 EEA）の発効と続く1995年の欧州連合（European Union, 以下 EU）への加盟である。スウェーデンと EU との経済関係は従来の自由貿易協定から EEA としての欧州単一市場への参加、さらに EU 加盟国へと移り変わっていった。この欧州単一市場への統合は経済制度や市場のルールの変化を通じてスウェーデン企業に大きな影響を与えた。もう一つの要因として挙げられるのが経済活動のグローバル化の進展であり、これにより国境を越えた企業活動が活発化した。

このように、過去20年は企業を取り巻く環境が大きく変化した時期といえるが、その中で欧州単一市場への統合はスウェーデン企業に対しどのような影響を与えたのだろうか。特に、1990年代以降は企業活動のグローバル化が進展したが、市場統合はスウェーデン企業の海外事業活動に影響を与えただろうか。

本報告では、欧州単一市場への統合に伴い、スウェーデン国内でどのような制度変更が行われたかについて、以下の二つの側面から考察する。第一の側面は、欧州経済地域への参加と EU 加盟によって導入されたモノ・サービス・資本の移動の自由である。具体的には、域内関税の撤廃や国境手続きの廃止、金融部門における域内単一免許導入、金融市場の開放と多国籍企業の活動に関する税制上の障壁の撤廃などが行われた。このように生産物・生産要素の移動の自由が保障されたことはスウェーデン企業にとってより大きなビジネス機会の獲得につながったと考えられる。第二の側面は、EEA への参加および EU 加盟を前提に実施した国内制度の調和である。これらに含まれるのはスウェーデンが1980年代から90年代にかけて実施した金融制度改革、税制改革、そして競争法改正である。これらの改革はスウェーデンの経済制度をオープンな仕組みに変えるものであったといえる。